

# 令和2年第5回（9月）上越市議会定例会

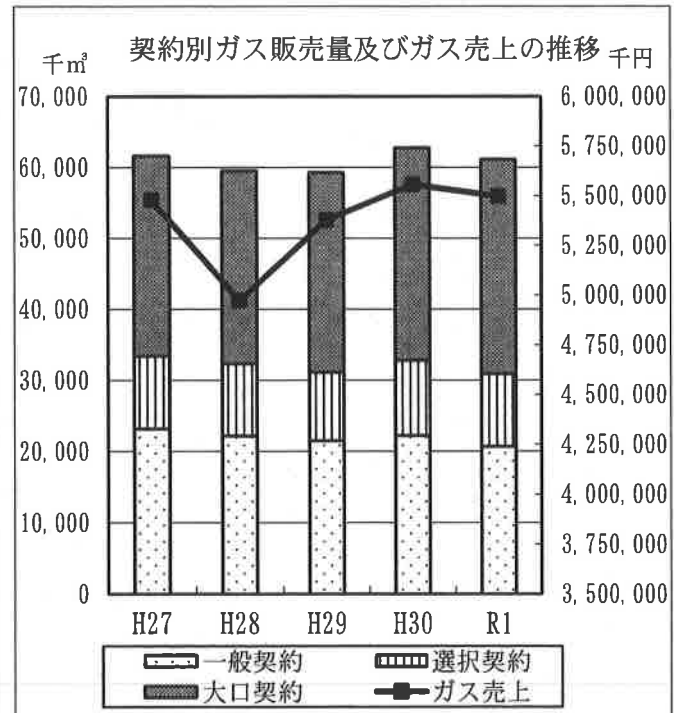
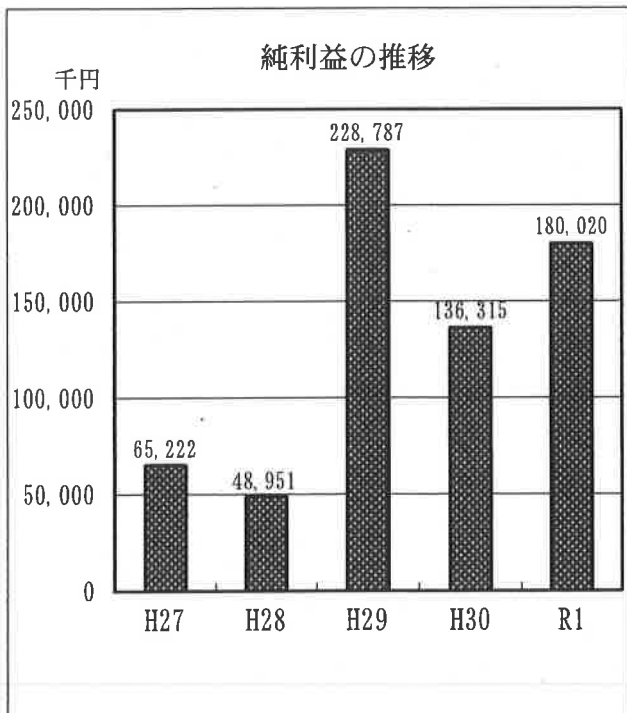
## 農政建設常任委員会資料

案件番号	案件名	提出課	ページ
議案第96号	令和元年度上越市ガス事業会計決算認定及び利益の処分について	経営企画課	1～34
議案第97号	令和元年度上越市水道事業会計決算認定及び利益の処分について		35～71
議案第98号	令和元年度上越市工業用水道事業会計決算認定について		72～76

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第96号
提出課	経営企画課

## 令和元年度上越市ガス事業会計決算の概要

- ガス販売量は、ガスの需要期である冬期間の平均気温が前年に比べ高く推移し、給湯及び暖房需要が減少したことから、一般契約が前年度に比べ92.5万 $\text{m}^3$ （4.5%）減少し、全体では前年度に比べ72.8万 $\text{m}^3$ （1.2%）減少の6,038.7万 $\text{m}^3$ となった。
- 収益的収支では、販売量の減少などにより売上利益は前年度に比べ1億2,107万円（5.9%）減少した。また、支出では、原料価格の上昇により売上原価が6,149万円（1.8%）増加した一方、固定資産の耐用年数到来に伴い減価償却費が9,352万円（6.1%）、企業債利息が726万円（11.7%）それぞれ減少した結果、当年度純利益は前年度に比べ4,370万円増の1億8,002万円となった。
- 資本的収支では、経年管更新事業及び低圧導管耐震化事業が完了し、管路耐震化率は他工事と関連して実施する箇所を除き100%になったことから、下水道工事など他の工事に合わせ、より耐震性に優れたポリエチレン管などへの更新を行った。また、災害発生時における供給停止範囲を最小限にし、復旧を迅速に行うためのガス管網のブロック化に向け、細分化した復旧ブロックにバルブを設置し、ガス導管網の整備を図った。



※選択契約は、一般契約と大口契約以外の契約

# 1 業務の概要

◇供給戸数は、0.3%増加。ガス販売量は家庭用の需要が減少し、前年度に比べ72.8万m<sup>3</sup> (1.2%) 減少。

(都市ガス)

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 行政区域内戸数	74,132	74,588	75,063	75,483	75,904	421	0.6%
2 供給区域内戸数	55,154	55,653	56,156	56,469	56,978	509	0.9%
3 供給戸数	46,393	46,486	46,541	46,597	46,721	124	0.3%
4 普及率	84.12	83.53	82.88	82.52	82.00	△ 0.52	-
5 年間ガス購入量	59,649,079	59,517,491	62,808,548	61,170,668	60,476,131	△ 694,537	△ 1.1%
6 年間ガス送出量	59,642,134	59,501,444	62,832,801	61,175,908	60,469,577	△ 706,331	△ 1.2%
7 年間ガス販売量	59,525,332	59,266,094	62,761,029	61,116,046	60,387,731	△ 728,315	△ 1.2%
8 一日最大送出量 (一日最大月日)	287,217 (1/25)	288,679 (1/24)	300,746 (1/24)	292,343 (2/13)	288,441 (2/6)	△ 3,902	△ 1.3%
9 一日平均送出量	162,957	163,018	172,145	167,605	165,217	△ 2,388	△ 1.4%
10 一日平均販売量	162,638	162,373	171,948	167,441	164,994	△ 2,447	△ 1.5%
11 有効率	99.86	99.89	99.94	99.96	99.92	△ 0.04	-
12 職員数	50	50	49	49	49	0	0.0%

※年度間の実質的な比較を行うため、平成28年度以前の購入量、送出量及び販売量については、現在の標準熱量の45.0MJに換算した数値で表記

(液化石油ガス)

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 供給戸数	181	179	178	174	170	△ 4	△ 2.3%
2 年間ガス送出量	13,303	12,695	12,844	12,567	11,999	△ 568	△ 4.5%
3 年間ガス販売量	13,587	13,396	13,138	12,632	12,047	△ 585	△ 4.6%
4 一日平均送出量	36	35	35	34	33	△ 1	△ 2.9%
5 一日平均販売量	37	37	36	35	33	△ 2	△ 5.7%

※送出量・販売量などは、標準熱量100.4652MJでの数値

## 2 決算の概要 ※消費税及び地方消費税抜きの金額

### (1) 収益的収支

単位：千円

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
入	営業収益	5,478,619	4,972,991	5,377,801	5,557,723	5,498,140	△ 59,583	△ 1.1%
	ガス売上	5,478,619	4,972,991	5,377,801	5,557,723	5,498,140	△ 59,583	△ 1.1%
	営業雑収益	293,402	237,542	263,318	280,195	319,357	39,162	14.0%
	附帯事業収益	8,732	8,827	8,148	6,689	5,272	△ 1,417	△ 21.2%
	営業外収益	606,950	577,041	501,595	458,184	418,802	△ 39,382	△ 8.6%
	繰入金	5,918	5,946	5,434	4,502	3,892	△ 610	△ 13.5%
	長期前受金戻 の他	564,077	514,914	461,528	416,528	377,402	△ 39,126	△ 9.4%
	その 営業外収益	36,955	56,181	34,633	37,154	37,508	354	1.0%
	特別利益	205	129	0	0	0	0	0.0%
	収入計	6,387,908	5,796,530	6,150,862	6,302,791	6,241,571	△ 61,220	△ 1.0%
支	営業費用	5,949,602	5,425,704	5,590,854	5,820,474	5,691,397	△ 129,077	△ 2.2%
	売上原価	3,509,485	3,003,158	3,194,371	3,510,110	3,571,600	61,490	1.8%
	職員給与費	335,779	309,600	302,326	312,515	325,732	13,217	4.2%
	(うち退職給付費)	(0)	(0)	(0)	(16,628)	(27,974)	(11,346)	68.2%
	修繕費	80,636	97,761	77,618	103,799	94,164	△ 9,635	△ 9.3%
	動力費	433	430	313	289	299	10	3.5%
	委託料	157,583	163,619	166,130	157,088	166,319	9,231	5.9%
	減価償却費	1,717,053	1,669,219	1,615,170	1,531,483	1,437,960	△ 93,523	△ 6.1%
	その 営業費用	148,633	181,917	234,926	205,190	95,323	△ 109,867	△ 53.5%
	営業雑費用	278,963	229,637	251,938	273,139	310,563	37,424	13.7%
	附帯事業費用	6,004	5,617	7,815	5,972	4,432	△ 1,540	△ 25.8%
	営業外費用	88,043	86,578	71,382	65,745	55,093	△ 10,652	△ 16.2%
	支払利息	86,654	78,258	70,049	62,085	54,823	△ 7,262	△ 11.7%
	その 営業外費用	1,389	8,320	1,333	3,660	270	△ 3,390	△ 92.6%
特別損失	74	43	86	1,146	66	△ 1,080	△ 94.2%	
支出計	6,322,686	5,747,579	5,922,075	6,166,476	6,061,551	△ 104,925	△ 1.7%	
収支差引(純損益)	65,222	48,951	228,787	136,315	180,020	43,705	32.1%	

## (2) 資本的収支

単位：千円

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	補助金	0	0	0	0	2,241	2,241	皆増
	工事負担金	143,498	115,740	156,288	242,008	241,506	△ 502	△ 0.2%
	固定資産売却収入	111	666	8	39	23	△ 16	△ 41.0%
収 入 計	143,609	116,406	156,296	242,047	243,770	1,723	0.7%	
支 出	建設改良費	1,041,155	1,129,799	977,638	1,041,091	955,619	△ 85,472	△ 8.2%
	(うち職員給与費)	(49,381)	(72,908)	(76,434)	(75,362)	(73,204)	(△ 2,158)	(△ 2.9%)
	建 物	8,540	841	10,731	42,068	60,773	18,705	44.5%
	構 築 物	0	0	2,505	0	0	0	0.0%
	機 械 装 置	37,556	9,183	6,097	145,286	0	△ 145,286	皆減
	車両運搬具	1,750	0	1,135	6,338	2,427	△ 3,911	△ 61.7%
	工具器具備品	7,447	13,671	17,844	6,171	7,777	1,606	26.0%
	ガスメーター	13,751	13,628	14,000	12,107	14,255	2,148	17.7%
	導管本支管	787,949	958,242	776,222	663,041	662,836	△ 205	△ 0.0%
	導管供給管	176,830	130,507	140,782	150,918	189,511	38,593	25.6%
ソフトウェア	7,332	3,727	8,322	15,162	18,040	2,878	19.0%	
企業債償還金	388,105	397,982	408,978	394,647	372,308	△ 22,339	△ 5.7%	
支 出 計	1,429,260	1,527,781	1,386,616	1,435,738	1,327,927	△ 107,811	△ 7.5%	
差 引 不 足 額	1,285,651 (1,285,651)	1,411,375 (1,411,375)	1,230,320 (1,230,320)	1,193,691 (1,193,691)	1,084,157 (1,084,157)	△ 109,534 (△ 109,534)	△ 9.2% (△ 9.2%)	
補 填 財 源	過年度分損益勘定 留 保 資 金	206,381	110,492	109	873	792	△ 81	△ 9.3%
	当年度分損益勘定 留 保 資 金	1,079,270	1,189,883	1,186,211	1,183,818	1,074,365	△ 109,453	△ 9.2%
	減 債 積 立 金	0	33,000	13,000	2,000	2,000	0	0.0%
	建設改良積立金	0	78,000	31,000	7,000	7,000	0	0.0%
計	1,285,651	1,411,375	1,230,320	1,193,691	1,084,157	△ 109,534	△ 9.2%	
企 業 債 残 高	4,526,983	4,129,001	3,720,023	3,325,376	2,953,068	△ 372,308	△ 11.2%	

※括弧書は、特定収入（工事負担金等）分の消費税及び地方消費税納税計算後の不足額

収益的収支

収入：62億4,157万円

ガス料金収入 54億9,814万円
その他の収入 3億6,603万円
長期前受金戻入 3億7,740万円

支出：60億6,155万円

原料ガス費 35億7,160万円
人件費 3億3,370万円
修繕費 9,683万円
委託料など 5億6,664万円
支払利息 5,482万円
減価償却費 14億3,796万円
収支差引額（利益） 1億8,002万円

資本的収支

収入：2億4,377万円

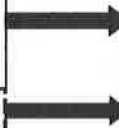
工事負担金など 2億4,377万円
収支不足額 10億8,415万円

支出：13億2,792万円

建設改良費 9億5,561万円
企業債償還金 3億7,230万円

留保資金等 補填財源 (減価償却費から長期前受金戻入分の金額を除いた額)
--

減価償却費等の損益勘定留保資金等で補填する。



### 3 決算主要項目の内容

#### (1) 収益的収支

単位：千円

(収益的収入) 予算額	決算額	予算額と決算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳					
			営業収益	営業雑収益	附帯事業収益	営業外収益	特別利益	
7,185,053	6,764,810	△ 420,243	△ 13,047	△ 425,376	△ 235	18,415	-	
(収益的支出) 予算額	決算額	不用額	不用額の内訳					
			営業費用	営業雑費用	附帯事業費用	営業外費用	特別損失	予備費
6,842,554	6,497,202	345,352	68,531	262,197	1,149	12,451	24	1,000

※以下、消費税及び地方消費税抜きの金額となっているため、上表の金額とは異なる

#### ①収益的収入

◇ガスの需要期である冬期間の平均気温が前年に比べ高く推移し、家庭用を中心に給湯及び暖房需要が減少したことからガス売上は5,958万円(1.1%)減少

単位：千円

項目	30年度決算	元年度決算	比較
ガス売上	5,557,723	5,498,140	△ 59,583

#### ○ガス契約区分別使用量実績

##### 1) 戸数

単位：戸；件

契約区分	30年度		元年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	30年度	元年度
	一般契約	44,581	537,547	44,635	536,873	54	△ 674	0.1%	△ 0.1%	95.7%
小型空調契約	98	1,186	93	1,137	△ 5	△ 49	△ 5.1%	△ 4.1%	0.2%	0.2%
空調契約	27	311	26	316	△ 1	5	△ 3.7%	1.6%	0.1%	0.1%
天然ガススタンド契約	1	12	1	12	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
時間帯別B契約	39	462	40	470	1	8	2.6%	1.7%	0.1%	0.1%
家庭用温水暖房契約	1,743	20,588	1,791	21,127	48	539	2.8%	2.6%	3.8%	3.8%
融雪契約	16	184	16	195	0	11	0.0%	6.0%	0.0%	0.0%
小型空調パッケージ契約	52	599	77	794	25	195	48.1%	32.6%	0.1%	0.2%
コーンエネルギーシヨソ契約	6	68	6	72	0	4	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
家庭用コーンエネルギーシヨソ契約	17	203	19	210	2	7	11.8%	3.4%	0.0%	0.1%
大口契約	17	204	17	204	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	46,597	561,364	46,721	561,410	124	46	0.3%	0.0%	100.0%	100.0%

## 2) 使用量

単位：m<sup>3</sup>

契約区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	30年度	元年度			30年度	元年度	30年度	元年度	増減率
一般契約	20,712,576	19,786,870	△925,706	△4.5%	33.9%	32.8%	38.5	36.9	△4.2%
小型空調契約	936,945	888,222	△48,723	△5.2%	1.5%	1.5%	790.0	781.2	△1.1%
空調契約	728,095	785,326	57,231	7.9%	1.2%	1.3%	2,341.1	2,485.2	6.2%
天然ガススタンド契約	14,835	17,331	2,496	16.8%	0.0%	0.0%	1,236.3	1,444.3	16.8%
時間帯別B契約	4,741,988	4,567,575	△174,413	△3.7%	7.8%	7.6%	10,264.0	9,718.2	△5.3%
家庭用温水暖房契約	1,498,687	1,496,973	△1,714	△0.1%	2.5%	2.5%	72.8	70.9	△2.6%
融雪契約	320,764	147,875	△172,889	△53.9%	0.5%	0.2%	1,743.3	758.3	△56.5%
小型空調パッケージ契約	1,289,802	1,620,150	330,348	25.6%	2.1%	2.7%	2,153.3	2,040.5	△5.2%
コージェネレーション契約	647,479	695,125	47,646	7.4%	1.1%	1.1%	9,521.8	9,654.5	1.4%
家庭用コージェネレーション契約	26,304	27,219	915	3.5%	0.0%	0.0%	129.6	129.6	0.0%
大口契約	30,198,571	30,355,065	156,494	0.5%	49.4%	50.3%	148,032.2	148,799.3	0.5%
合計	61,116,046	60,387,731	△728,315	△1.2%	100.0%	100.0%	108.9	107.6	△1.2%

## ○ガス用途区分別使用量・料金実績

## 1) 戸数

単位：戸・件

用途区分	30年度		元年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	元年度
									30年度	元年度
家庭用	42,991	517,925	43,184	518,782	193	857	0.4%	0.2%	92.3%	92.4%
工業用	74	864	73	883	△1	19	△1.4%	2.2%	0.1%	0.2%
商業用	2,786	33,711	2,731	32,964	△55	△747	△2.0%	△2.2%	6.0%	5.8%
官庁・学校用	746	8,864	733	8,781	△13	△83	△1.7%	△0.9%	1.6%	1.6%
合計	46,597	561,364	46,721	561,410	124	46	0.3%	0.0%	100.0%	100.0%

## 2) 使用量

単位：m<sup>3</sup>

用途区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	30年度	元年度			30年度	元年度	30年度	元年度	増減率
家庭用	18,354,938	17,909,175	△445,763	△2.4%	30.0%	29.6%	35.4	34.5	△2.5%
工業用	27,117,583	27,222,385	104,802	0.4%	44.4%	45.1%	31,386.1	30,829.4	△1.8%
商業用	6,353,926	6,079,755	△274,171	△4.3%	10.4%	10.1%	188.5	184.4	△2.2%
官庁・学校用	9,289,599	9,176,416	△113,183	△1.2%	15.2%	15.2%	1,048.0	1,045.0	△0.3%
合計	61,116,046	60,387,731	△728,315	△1.2%	100.0%	100.0%	108.9	107.6	△1.2%

## 3) 料金

単位：円

用途区分	料金		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用料		
	30年度	元年度			30年度	元年度	30年度	元年度	増減率
家庭用	2,231,690,198	2,203,742,128	△27,948,070	△1.3%	40.2%	40.1%	4,309	4,248	△1.4%
工業用	1,896,631,161	1,899,011,058	2,379,897	0.1%	34.1%	34.5%	2,195,175	2,150,635	△2.0%
商業用	605,327,069	587,925,766	△17,401,303	△2.9%	10.9%	10.7%	17,956	17,835	△0.7%
官庁・学校用	824,074,783	807,461,195	△16,613,588	△2.0%	14.8%	14.7%	92,969	91,955	△1.1%
合計	5,557,723,211	5,498,140,147	△59,583,064	△1.1%	100.0%	100.0%	9,900	9,793	△1.1%



単位：千円

項 目	30年度決算	元年度決算	比 較
営 業 雑 収 益	280,195	319,357	39,162

○年度末供給戸数 46,721 戸

令和元年度実績値

受注工事収益 313,904 千円

受注工事収益（修繕・その他） 5,453 千円

単位：件

	新設工事	改造工事	増設工事	撤去工事	その他	合 計
30年度	184	414	57	328	25	1,008
元年度	207	424	74	368	31	1,104
比 較	23	10	17	40	6	96

単位：千円

項 目	30年度決算	元年度決算	比 較
附 帯 事 業 収 益	6,689	5,272	△ 1,417

○LPガス用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

単位：戸；件

用途区分	30年度		元年度		増 減		増 減 率		構 成 比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	30年度	元年度
家 庭 用	165	2,001	161	1,947	△ 4	△ 54	△2.4%	△2.7%	94.8%	94.7%
商 業 用	3	36	3	36	0	0	0.0%	0.0%	1.7%	1.8%
そ の 他	6	72	6	72	0	0	0.0%	0.0%	3.5%	3.5%
合 計	174	2,109	170	2,055	△ 4	△ 54	△2.3%	△2.6%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位：m<sup>3</sup>

用途区分	使 用 量		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸 当 たり 使 用 量		
	30年度	元年度			30年度	元年度	30年度	元年度	増減率
家 庭 用	12,368	11,792	△ 576	△4.7%	97.9%	97.9%	6.2	6.1	△1.6%
商 業 用	243	237	△ 6	△2.5%	1.9%	2.0%	6.8	6.6	△2.9%
そ の 他	21	18	△ 3	△14.3%	0.2%	0.1%	0.3	0.3	0.0%
合 計	12,632	12,047	△ 585	△4.6%	100.0%	100.0%	6.0	5.9	△1.7%

3) 料金

単位：円

用途区分	料 金		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸 当 たり 使 用 料		
	30年度	元年度			30年度	元年度	30年度	元年度	増減率
家 庭 用	4,980,221	4,778,799	△ 201,422	△4.0%	96.8%	96.7%	2,489	2,454	△1.4%
商 業 用	100,530	99,420	△ 1,110	△1.1%	2.0%	2.0%	2,793	2,762	△1.1%
そ の 他	61,200	61,570	370	0.6%	1.2%	1.3%	850	855	0.6%
合 計	5,141,951	4,939,789	△ 202,162	△3.9%	100.0%	100.0%	2,438	2,404	△1.4%

○年度末供給戸数 170 戸

令和元年度実績値

受注工事収益 113 千円

単位：千円

項目	30年度決算	元年度決算	比較
営業外収益	458,184	418,802	△ 39,382

○営業外収益の内訳

単位：千円

		30年度	元年度	比較
受取利息	預金利息	152	156	4
	貸付金利息	2	22	20
	小計	154	178	24
繰入金	児童手当	4,502	3,892	△ 610
	小計	4,502	3,892	△ 610
長期前受金戻入	長期前受補助金戻入	223	0	△ 223
	長期前受工事負担金戻入	398,479	362,425	△ 36,054
	長期前受受贈財産評価額戻入	3,211	404	△ 2,807
	長期前受繰入金戻入	14,615	14,572	△ 43
	小計	416,528	377,401	△ 39,127
雑収益	貸付料	3,113	2,843	△ 270
	下水道等受託収益	28,782	29,625	843
	補償修繕収益	268	1,431	1,163
	その他	4,837	3,432	△ 1,405
	小計	37,000	37,331	331
	合計	458,184	418,802	△ 39,382

②収益的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

◇原料価格の上昇により売上原価が6,149万円（1.8%）増加した一方で、固定資産の耐用年数到来に伴い減価償却費が9,352万円（6.1%）減少

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
原料ガス購入業務	3,510,110	3,571,600	61,490
経費内訳			
売上原価	3,571,600		
【目的】 都市ガスを安定的に供給するために原料ガスを確保する。			
【概要及び成果】			
	単位：m <sup>3</sup>		
	30年度	元年度	比較
ガス購入量	61,170,668	60,476,131	△ 694,537

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
供給所運転管理業務	18,407	9,472	△ 8,935
経費内訳			
備用品費	2,557	保険料	205
修繕費	1,683	通信運搬費	1,553
動力費	189	委託料	1,323
光熱燃料費	483	手数料	119
使用ガス費	1,360		
【目的】 ガス供給所の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。			
【概要及び成果】 定期的な点検整備を実施し、適正な運転管理に努めた。平成30年度に実施したガスホルダー定期検査等の修繕費が減少したことから、前年度に比べ事業費が減少した。			
＜主な費用＞			
備用品費	付臭剤		2,459 千円
修繕費	南部ガス供給所非常用自家発電設備移設工事		1,132 千円
通信運搬費	各供給所専用回線使用料		1,160 千円

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
供給施設維持管理業務	93,564	64,018	△ 29,546

経費内訳

報酬	2,043	保険料	258
備用品費	712	通信運搬費	1,300
修繕費	11,533	委託料	30,103
特別修繕引当金繰入額	13,000	手数料	754
動力費	109	印刷製本費	189
光熱燃料費	2,363	租税課金	50
使用ガス費	215	雑費	4
賃借料	493	固定資産除却費	892

【目的】

地区整圧器室、整圧器の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。

【概要及び成果】

地区整圧器室等の定期的な点検整備を実施し、適正な維持管理に努めた。  
地震災害など緊急時に使用する応急資材を保管するため、使用していない大豆分岐室を緊急資材庫に改修した。平成30年度に旧大潟区営業所解体工事等が完了したことから、前年度に比べ事業費が減少した。

<主な費用>

報酬	非常勤一般職 1人	2,022 千円
修繕費	地区整圧器室避雷対策工事 (2か所)	2,500 千円
	大豆分岐室改修工事	3,400 千円
	北部営業所非常用発電機設置工事	1,132 千円
	大貫4丁目整圧器室建物修繕工事	850 千円
委託料	維持管理業務委託	13,227 千円
	中圧ガス導管防食状況調査業務委託	8,150 千円
	供給所可燃性ガス検知警報機定期点検業務委託	980 千円
	春日山供給所付臭ポンプ点検整備業務委託	1,150 千円
	北本町ガス供給所地下水水質調査業務委託	128 千円

【課題及び今後の方向性】

旧北本町ガス供給所構内の土壌中の特定有害物質の拡散監視を目的とした地下水調査を令和6年度まで年1回、令和7年度以降は2年に1回実施し、結果を公表する。

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎ 供給所統廃合事業	20,892	0	△ 20,892
【目的】 老朽化した北本町ガス供給所を廃止することにより、コストの軽減及び施設の効率化を図る。			
【概要及び成果】 平成26年度に南部ガス供給所の受入設備増強工事を実施後、北本町ガス供給所の原料ガスの受入を停止した。平成29年度にガスホルダーを解体し、平成30年度に北本町ガス供給所管理棟等を解体したことから事業を完了した。			

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
ガス管修繕業務	34,938	27,996	△ 6,942
経費内訳			
報酬	2,581	保険料	106
備用品費	531	印刷製本費	61
修繕費	24,704	租税課金	13
【特定財源】 その他雑収益	1,431		
【目的】 ガス漏えい及び導管に係る事故の未然防止と拡大防止を図る。			
【概要及び成果】 ガス漏えい及び導管に係る事故に対して迅速に対応し未然防止と拡大防止に努めた。 本支管・供給管修理件数 令和元年度 25件（平成30年度 25件） ＜主な費用＞			
修繕費	責任修繕工事委託	17,510 千円	
	責任修繕工事舗装本復旧	3,363 千円	
	補償修繕工事委託	1,623 千円	

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
ガスメーター取替業務	61,603	73,434	11,831
経費内訳			
報酬	1,900	通信運搬費	293
備用品費	122	委託料	16,410
修繕費	54,634	印刷製本費	74
光熱燃料費	1		
【目的】 計量法に基づき、検定満期を迎えるガスメーターを取り替える。			
【概要及び成果】 令和元年度に検定満期を迎えるガスメーターを計画的に取り替えた。			
＜主な費用＞			
修繕費	取替用ガスメーター（取替数5,607個）	53,855 千円	
委託料	取替業務委託	16,410 千円	

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
受注工事業務	263,783	302,619	38,836
経費内訳			
報酬	1,398	保険料	28
備用品費	206	通信運搬費	8
修繕費	2,681	委託料	1,322
光熱燃料費	29	工事請負費	295,744
賃借料	402	器具販売原価	801
【特定財源】 受注工事収益	302,619		
【目的】 安全で安定した供給を行うための装置工事の施工に係る管理を行う。			
【概要及び成果】 申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工時の検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。令和元年度は、市内の小中学校のガス空調設備の導入により工事件数が増加したことから、前年度より事業費が増加した。			
＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人		1,398 千円
修繕費	受注修繕工事委託		2,615 千円
委託料	工事受付システム維持管理費		1,322 千円
工事請負費	受注工事請負費 (1,104件)		295,744 千円

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
液化石油ガス販売事業	5,972	4,432	△ 1,540
経費内訳			
液化石油ガス売上原価	2,223	手数料	102
備用品費	30	印刷製本費	9
修繕費	945	負担金及び補助	49
光熱燃料費	29	雑費	24
賃借料	48	固定資産除却費	228
保険料	8	減価償却費	219
通信運搬費	31	工事請負費	105
委託料	382		
【特定財源】			
液化石油ガス売上	4,100	長期前受金戻入	219
液化石油ガス受注工事収益	113		
【目的】			
液化石油ガスを安全で安定的に供給する。			
【概要及び成果】			
液化石油ガス供給施設（大瀨区）の維持管理を適正に行い、安全で安定的なガス供給に努めた。			
販売量	令和元年度実績12,047m <sup>3</sup> （平成30年度に対し585m <sup>3</sup> 、4.6%の減）		
供給戸数	令和元年度実績170戸（平成30年度に対し4戸、2.3%の減）		
<主な費用>			
修繕費	責任修繕工事委託		874千円



単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎白ガス灯外内管対策	439	679	240
経費内訳			
委託料	679		
【目的】 需要家の敷地に埋設された経年埋設内管（白ガス管）を耐震性・耐腐食性に優れたポリエチレン管へ入れ替えすることで、ガス漏れ事故の防止及び耐震性の向上を図る。			
【概要及び成果】 需要家に対し、改善工事の趣旨を周知・説明し、白ガス灯外内管の削減を図った。 改善折衝は、4年に1回の頻度で行う内管漏えい検査及び消費機器調査と合わせ実施した。 ガス本支管の入替工事の際に工事範囲内の対象需要家に対し周知を行った。 ※灯外内管：道路境界からガスメーターまでのガス管  令和元年度実績 折衝件数 839件 改善件数 269件 ＜主な費用＞ 委託料 白ガス管折衝業務委託 679 千円			

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎ガス管漏えい検査	3,677	4,050	373
経費内訳			
委託料	4,050		
【目的】 道路に埋設されているガス管の漏えい検査を実施し、安全で安定した供給を確保する。			
【概要及び成果】 ガス供給エリアを4ブロックに分割し、ガス事業法に基づき4年に1回の頻度で計画的に漏えい検査を行う。令和元年度は合併前上越市で実施した。 ＜主な費用＞ 委託料 導管漏えい検査業務委託 4,050 千円 (検査延長 147,802 m)			

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎ 定期保安調査	35,171	35,804	633
経費内訳			
報酬	1,465	通信運搬費	111
備用品費	118	委託料	32,186
修繕費	699	手数料	10
光熱燃料費	36	印刷製本費	1,145
保険料	27	租税課金	7
【目的】			
ガス事業法に基づく内管漏えい検査及び消費機器調査を実施して、漏えいや消費機器の不備による事故を未然に防止することで、需要家の安全なガス使用を確保する。			
【概要及び成果】			
ガス事業法に基づき、4年に1回の頻度で内管漏えい検査及び消費機器調査を実施した。			
＜定期保安調査件数＞			
戸建一般需要家検査	7,805 件		
集合一般需要家検査	3,028 件		
業務用需要家検査	220 件		
閉栓灯外内管検査	2,400 件		
不在需要家訪問	894 件		
	14,347 件		
＜主な費用＞			
委託料	内管漏えい検査及び消費機器調査業務委託	32,186 千円	

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
マッピングシステム整備業務	2,599	2,664	65
経費内訳			
報酬	1,697	委託料	967
【目的】 ガス水道管路情報システム（マッピング）の管理を行い、ガス施設の維持管理及び将来計画に活用する。			
【概要及び成果】 工事竣工に伴うガス管情報の修正などを行い、システムを適正に維持管理した。			
＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人		1,697 千円
委託料	マッピングシステムソフト保守業務委託		967 千円

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
都市ガスPR活動業務	7,761	6,574	△ 1,187

経費内訳

報酬	84	通信運搬費	53
備用品費	132	手数料	20
修繕費	170	租税課金	10
光熱燃料費	61	需要開発費	5,981
保険料	63		
【特定財源】			
その他雑収益	229		

【目的】

クリーンなエネルギーで供給安定性の高い都市ガスを幅広くPRすることで、新規の業務用及び家庭用の販売拡大を目指すとともに、既存需要家の都市ガス離れの防止を図る。

【概要及び成果】

家庭用ガス販売では、新築住宅の都市ガス採用を拡大するため、住宅販売会社等のサブユーザーへの営業活動やメディアを活用したPRなどを行った。既築住宅については料金プランなどを提案し、都市ガスの良さや便利さ、安全性、経済性について情報発信を行った。

業務用ガス販売は、新規開拓による大口需要家の獲得を目指し、重油等の他燃料を使用している工場などに対し、都市ガスへの燃料転換を勧めた。令和元年度は、供給エリア内すべての市立小中学校などに空調（GHP冷房）を導入することができた。

○ガス水道フェア来場者数

	30年度	元年度	比較
上越会場	5,164	5,395	231
柿崎会場	205	220	15
大潟会場	1,837	90	△ 1,747
中郷会場	184	156	△ 28
合計	7,390	5,861	△ 1,529

※大潟会場の平成30年度はかつは祭りと同時間開催。令和元年度は単独開催。

○クッキング教室参加者数

	30年度	元年度	比較
開催回数	6	5	△ 1
参加者数	106	83	△ 23

※令和元年度は新型コロナウイルスの影響により、3月のクッキング教室を中止

○まちなかショールーム来場者数

	30年度	元年度	比較
来場者数	1,709	1,717	8

<主な費用>

需要開発費	ガス水道フェア経費	2,428 千円
	ガス広告経費	1,678 千円
	まちなかショールーム経費	1,105 千円

【課題及び今後の方向性】

オール電化等の他燃料との競合環境下において、新築時の都市ガス採用率の増加などの結果が表れてくるには時間を要するが、新たに設置するガスショールームを営業拠点として、都市ガスの利便性のPRに努める。

【新庁舎内ガスショールームの概要】

- 名称 「ガステラス」
- 営業時間 平日 10時～18時  
土・日・祝 10時～17時
- 休館日 毎月第1、第3土曜日及び  
年末年始（12/29～1/3）

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎都市ガス設置機器助成金	1,060	3,540	2,480

経費内訳

需要開発費 3,540

【目的】

人口減少やオール電化等の他燃料との競合などにより減少傾向にある家庭用ガス販売量維持のため、都市ガス機器の設置に対し助成金を交付する。

【概要及び成果】

家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」と省エネ型高効率給湯器「エコジョーズ」の設置費の助成を行い、温水暖房等の利用による家庭用ガス販売量の拡大を図った。エネファーム、エコジョーズともに助成金制度の利用が増加したことから、前年度に比べ事業費が増加した。

<主な費用>

エネファーム 400千円/台× 5台 = 2,000千円

エコジョーズ 30千円/台× 38台 = 1,140千円

(温水暖房機器同時設置の場合)

エコジョーズ 20千円/台× 12台 = 240千円

(温水暖房機能付本体設置の場合)

○助成金制度実績件数

	30年度	元年度	比較
エネファーム	0	5	5
エコジョーズ	37	50	13

【課題及び今後の方向性】

エコジョーズの助成件数増加は、対象拡大に加え制度の認知度が向上してきたことによるものと考えられるため、引き続きサブユーザー及びエンドユーザーに制度が浸透するよう努める。また、エネファームについては、サブユーザーの積極的な採用により、今後も件数増が見込まれることを踏まえ、制度内容について精査していく。

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較												
料金徴収委託業務	83,952	83,477	△ 475												
経費内訳															
備用品費	69	委託料	74,007												
修繕費	67	手数料	162												
賃借料	1,999	印刷製本費	21												
通信運搬費	7,152														
【特定財源】															
その他雑収益	29,625														
【目的】															
民間ノウハウを活用することで、事務効率の向上とお客様サービスの充実を図る。															
【概要及び成果】															
<p>民間事業者に包括的な料金徴収業務を委託し、民間のノウハウを活用したことにより、計画収納率99.5%を確保できた。また、チェック機能の確保に留意しながら、業務レベルの向上に継続的に取り組んだ。</p> <p>委託期間：平成27年4月～令和2年3月（5年間）</p>															
<p>&lt;主な費用&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>賃借料</td> <td>料金システムリース料</td> <td>1,999 千円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>料金納入令書等郵送料</td> <td>7,128 千円</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>料金等徴収業務委託料</td> <td>61,842 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>料金口座振替及びコンビニ収納手数料</td> <td>6,710 千円</td> </tr> </table>				賃借料	料金システムリース料	1,999 千円	通信運搬費	料金納入令書等郵送料	7,128 千円	委託料	料金等徴収業務委託料	61,842 千円		料金口座振替及びコンビニ収納手数料	6,710 千円
賃借料	料金システムリース料	1,999 千円													
通信運搬費	料金納入令書等郵送料	7,128 千円													
委託料	料金等徴収業務委託料	61,842 千円													
	料金口座振替及びコンビニ収納手数料	6,710 千円													
<p>&lt;開栓時調査&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>戸建一般需要家検査</td> <td>850 件</td> </tr> <tr> <td>集合一般需要家検査</td> <td>3,336 件</td> </tr> <tr> <td>業務用需要家検査</td> <td>61 件</td> </tr> </table>				戸建一般需要家検査	850 件	集合一般需要家検査	3,336 件	業務用需要家検査	61 件						
戸建一般需要家検査	850 件														
集合一般需要家検査	3,336 件														
業務用需要家検査	61 件														
【課題及び今後の方向性】															
<p>令和2年度以降も包括業務委託を実施し、引き続き収納率の維持向上に努めるとともに、受託業者との日常的な連携を通じて情報や課題を共有し、業務レベルの維持向上に継続して取り組んでいく。</p>															

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
無線設備管理業務	86	47	△ 39
経費内訳			
修繕費	18	手数料	29
【目的】 ガス漏えい対応や災害時などにおける緊急連絡用無線設備を適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 電波法に基づく許可申請及び設備の維持管理を行った。			
＜主な費用＞			
修繕費	無線機器等修理費		18 千円
手数料	無線局電波利用料		29 千円

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
局ネットワーク管理業務	3,362	3,153	△ 209
経費内訳			
備用品費	69	通信運搬費	27
賃借料	150	委託料	2,907
【目的】 局のネットワーク、サーバ等について、セキュリティを含め適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 局のネットワーク及び機器等の設定及び管理を適正に行った。			
＜主な費用＞			
委託料	電算処理運用支援業務委託		2,088 千円
	局内イントラネット保守業務委託		807 千円





単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
庁舎維持管理業務	7,490	7,398	△ 92
経費内訳			
備用品費	137	保険料	25
修繕費	557	通信運搬費	477
光熱燃料費	2,132	委託料	2,463
使用ガス費	475	手数料	1,038
賃借料	56	雑費	38
【特定財源】 その他雑収益	2,667		
【目的】 本局庁舎の適切な維持管理により執務環境を確保する。			
【概要及び成果】 本局庁舎施設及び設備の定期的な保守点検等を実施し、庁舎環境の安全確保に努めた。また、庁舎設備の故障等に速やかに対応した。			
＜主な費用＞			
光熱燃料費	庁舎電気料金	1,215 千円	
委託料	庁舎維持管理業務委託	1,620 千円	

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
経理業務	2,392	2,402	10
経費内訳			
報酬	1,492	印刷製本費	16
委託料	884	負担金及び補助	10
【目的】 地方公営企業法を始めとする関係法令に基づき適正な会計処理を行うことにより、事業経営の健全性を維持する。			
【概要及び成果】 上越市ガス水道事業会計規程に基づく経理処理を行うとともに、会計システムを適正に管理した。			
＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人	1,492 千円	
委託料	企業会計システム保守業務委託	884 千円	

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較						
◎ 職員研修	1,156	927	△ 229						
経費内訳									
報酬	63	手数料	44						
備用品費	57	負担金及び補助	303						
旅費交通費	460								
【目的】									
外部研修、内部研修を通じて職員の知識及び技術力の向上を図る。									
【概要及び成果】									
<p>職員の技術や知識の向上・継承のため外部講師を依頼し、ガス管接続を行う実地研修や移動式ガス発生設備の設置研修などの内部研修を実施した。また、職員に技術資格の取得を奨励するため、受検費用の一部助成を行った。</p>									
<p>&lt;主な費用&gt;</p> <table> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>研修会旅費交通費</td> <td>460 千円</td> </tr> <tr> <td>負担金及び補助</td> <td>研修会参加費等</td> <td>303 千円</td> </tr> </table>				旅費交通費	研修会旅費交通費	460 千円	負担金及び補助	研修会参加費等	303 千円
旅費交通費	研修会旅費交通費	460 千円							
負担金及び補助	研修会参加費等	303 千円							
【課題及び今後の方向性】									
<p>職員の技術のより一層の向上を図るため、定期的に職員の技術力を確認するとともに、研修カリキュラムを検証し、効率的、効果的な研修を進めていく。</p>									

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
その他営業費用	1,929,764	1,792,029	△ 137,735

経費内訳

報酬	1,835	保険料	1,392
給料	154,791	通信運搬費	88
手当	70,869	委託料	334
賞与引当金繰入額	19,748	手数料	113
法定福利費	48,471	印刷製本費	59
法定福利費引当金繰入額	3,879	交際費	10
厚生福利費	395	負担金及び補助	3,622
退職給付引当金	27,974	食糧費	1
備用品費	3,897	租税課金	7
旅費交通費	749	貸倒引当金繰入額	567
修繕費	87	雑費	205
光熱燃料費	354	たな卸減耗費	49
使用ガス費	39	固定資産除却費	14,176
賃借料	358	減価償却費	1,437,960

【概要及び成果】

<主な費用>

職員給与費（営業費用に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
30年度	38人	151,004	93,081	16,628	51,803	312,516
元年度	38人	154,791	90,617	27,974	52,350	325,732
比較	0人	3,787	△ 2,464	11,346	547	13,216

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較			
その他営業雑費用	9,357	7,987	△ 1,370			
経費内訳						
給料	4,527	法定福利費	1,343			
手当	1,396	法定福利費引当金繰入額	117			
賞与引当金繰入額	594	厚生福利費	10			
【特定財源】						
受注工事収益	7,987					
【概要及び成果】						
<p>申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適切な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。</p> <p>&lt;主な費用&gt;</p> <p>職員給与費（営業雑費用に係る職員分）</p>						
単位：千円						
	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
30年度	1人	4,406	3,297	0	1,637	9,340
元年度	1人	4,527	1,990	0	1,460	7,977
比較	0人	121	△ 1,307	0	△ 177	△ 1,363

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
支払利息	62,085	54,823	△ 7,262
経費内訳			
企業債利息	54,823		
【目的】			
<p>既発行企業債に係る利息を確実に支払うとともに、新規発行を抑制して支払利息の削減を行い、将来の財務負担を軽減する。</p>			
【概要及び成果】			
<p>中長期的な経営収支見通しに基づき、内部留保資金を活用し企業債の新規発行を行わないことにより、支払利息額が減少した。</p> <p>&lt;支払先&gt;</p> <p>財務省 24,831 千円</p> <p>地方公共団体金融機構 29,992 千円</p>			

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
その他営業外費用	4,806	336	△ 4,470
経費内訳			
雑支出	270	その他特別損失	66
【概要及び成果】			
＜主な費用＞			
雑支出	消費税納税計算に伴う支出		225 千円
固定資産売却損	車両入替えに伴う売却損		66 千円

(2) 資本的収支

単位：千円

(資本的収入) 予算額	決算額	翌年度繰越 財源額	予算額と決 算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳		
				補助金	工事負担金	固定資産売却収入
419,082	245,689	33,352	△ 173,393	2,241	△ 175,659	25
(資本的支出) 予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	不用額の内訳		
				建設改良費	企業債償還金	
1,829,970	1,411,187	209,415	209,368	209,364		4

※以下、消費税及び地方消費税抜きの金額となっているため、上表の金額とは異なる

①資本的収入

単位：千円

項目	30年度決算	元年度決算	比較
補助金	0	2,241	2,241

○新庁舎地中熱温度調査及び融雪設備詳細設計業務に係る補助金 2,241 千円  
(エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金)

単位：千円

項目	30年度決算	元年度決算	比較
工事負担金	242,008	241,506	△ 502

○下水道工事等に伴う移設補償費及び団地開発に伴う導管布設負担金

単位：千円

区分	30年度	元年度	比較
区画整理・団地	1,941	20,795	18,854
一般他工事関連	12,326	29,446	17,120
下水道関連	227,470	189,735	△ 37,735
供給管関連	271	1,530	1,259
合計	242,008	241,506	△ 502

単位：千円

項目	30年度決算	元年度決算	比較
固定資産売却収入	39	23	△ 16

○車両売却収入

・普通乗用車1台

23 千円

②資本的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎供給施設更新事業	145,286	0	△ 145,286

【目的】

老朽化したガス供給施設の更新を行い、安全で安定した供給を図る。

【概要及び成果】

計画耐用年数による更新を基本として、更新費用の抑制を図るとともに、効率的に供給施設の更新を行っているが、令和元年度は該当する整圧器等の更新がないため、事業費の計上はない。

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎ 経年管更新事業	56,810	0	△ 56,810

【目的】

白ガス管及び低圧・中圧ジュート巻鋼管などの経年管について更新を行い、保安レベルを向上し、安全で安定した供給を図る。

【概要及び成果】

国が早期に入替えを要するとしている経年管については、計画事業量を上回る更新を実施してきた結果、計画よりも2年前倒しの平成30年度で事業を完了した。

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
◎ 低圧導管耐震化事業	224,112	0	△ 224,112

【目的】

地震等による供給停止区域を縮小し災害復旧期間を短縮するため、低圧導管の耐震化を進め、災害に強いガス供給網を構築し、安全で安定した供給を図る。

【概要及び成果】

日本ガス協会が定める耐震化率の集計方法が変更になり、平成30年度において耐震化率が他工事と関連する箇所を除き100%に到達したことから、事業を完了した。

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
設計業務	7,526	19,344	11,818

経費内訳

工具器具備品	2,658	ソフトウェア	9,900
導管本支管	6,786		

【目的】

ガス本支管工事の設計を行い、設計図及び設計書を作成する。

【概要及び成果】

CAD設計積算システムを使用して設計積算を行うとともに、業務の一部について業務委託により実施した。令和元年度は、システムサーバーOSのサポート終了に伴いCAD設計積算システムを更新したため、前年度に比べ事業費が増加した。

<主な費用>

工具器具備品	設計積算システム用パソコン14台更新	2,658 千円
導管本支管	本支管工事設計業務委託	5,165 千円
ソフトウェア	設計積算システム更新	9,900 千円

単位：千円

事業名	30年度決算	元年度決算	比較
その他建設改良費	1,002,004	1,308,583	306,579

経費内訳

建物	60,773	導管本支管	656,050
車両運搬具	2,427	導管供給管	189,510
工具器具備品	5,120	ソフトウェア	8,140
ガスメーター	14,255	企業債償還金	372,308

【特定財源】

補助金	2,241	工事負担金	241,506
-----	-------	-------	---------

【概要及び成果】

<主な費用>

職員給与費（設計監督業務に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
30年度	10人	37,888	24,053	0	13,422	75,363
元年度	10人	36,991	23,617	0	12,596	73,204
比較	0人	△ 897	△ 436	0	△ 826	△ 2,159

建物	庁舎新築工事費	51,927 千円
	庁舎新築工事監理業務委託	805 千円
	地中熱温度調査及び融雪設備詳細設計業務委託	3,850 千円
工具器具備品	事務用パソコン・プリンター更新	2,220 千円
	公営企業会計・電子決裁システム関連機器更新	1,198 千円
導管本支管	下水道関連工事など導管本支管工事費	578,135 千円
	布設延長 L=9,123m	
ソフトウェア	公営企業会計・電子決裁システム更新	8,140 千円
企業債償還金	財務省	149,659 千円
	地方公共団体金融機構	222,649 千円



【ガス水道局庁舎新築工事の概要】

○建設費（税込み）

1,141,160千円（ガス水道事業会計合計での2か年度総額）

【内訳】令和元年度 116,010千円 令和2年度 1,025,150千円（予定）

（内容）建築工事・電気設備工事・機械設備工事、工事監理業務

○建設地

所在地：春日山町3丁目1番63号（春日謙信交流館南側）

敷地面積：3,909.16㎡

○建物概要

庁舎：鉄骨造 地上3階建て（一部平屋建て）

建築面積：1,095.80㎡

延床面積：2,595.49㎡

○今後の予定

令和2年9月末 工事竣工

令和2年10月・11月 備品搬入等

令和2年11月24日 新庁舎での業務開始

○工事進捗率

73.5%（令和2年7月末現在）



令和2年8月12日撮影

#### 4 第2次ガス事業中期経営計画との比較

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
白ガス灯外内管 残存率	%	10.7	10.3	△ 0.4	↑	建物解体やリフォーム工事、本支管入替工事等のタイミングに合わせて、白ガス灯外内管の改善を進めたため、計画値を上回った。
職員資格取得度	件/人	2.01	2.25	0.24	↑	職員へ資格取得を奨励するとともに、ガス水道技術の向上に寄与する技術資格取得に係る助成措置を継続して実施し、職員の資格取得件数が増加したことから、計画値を上回った。
家庭用選択契約 獲得件数	件	100	70	△ 30	↓	家庭用選択契約獲得件数は前年度に比べ10件増加したものの、オール電化住宅など他燃料との競合により計画を達成できなかった。
家庭用1戸1月当たり ガス販売量	m <sup>3</sup> /件	37.0	34.5	△ 2.5	↓	需要期である冬期間の平均気温が高く推移し、家庭用の給湯及び暖房需要が減少したため、計画を達成できなかった。
大口契約、業務用 選択契約獲得件数	件	4	30	26	↑	ガス供給区域内すべての市立小・中学校など25件においてガス空調が採用されたほか、新規物件や燃料転換物件でも5件の契約を獲得したため、計画値を上回った。

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
損益勘定所属職員 1人当たりガス販売量	千m <sup>3</sup> /人	1,551	1,548	△ 3	↓	ガスの需要期である冬期間の平均気温が前年に比べ高く推移し、給湯及び暖房需要が減少した結果、販売量が減少したため、計画値を下回った。
経常収支比率	%	104.0	103.0	△ 1.0	↓	暖冬に伴うガス販売量の減少及び原料調整費上限額到達により、ガス売上が減少したため、計画値を下回った。
ガス売上に対する 企業債利息割合	%	1.0	1.0	0.0	→	—
ガス売上に対する 企業債残高割合	%	53.6	53.7	0.1	↓	企業債残高は計画どおりとなったものの、暖冬に伴うガス販売量の減少及び原料調整費上限額到達により、ガス売上が減少したため、計画値を下回った。
収納率	%	99.5	99.7	0.2	↑	収納業務を民間委託し、民間のノウハウを活用したことにより、計画値を上回った。

※計画対比： ↑ 計画を上回っている      ↓ 計画を下回っている